

県立大和高等学校 令和7年度 第3回 学校運営協議会議事録

日時 令和8年3月13日（金） 14:30～16:30

会場 本校 A3 書道室

出席者 【委員】

戸井田 洋（神奈川工科大学学生支援本部キャリア就職課公務員対策室）

山元 哲夫（つきみ野自治会長）

尾崎 憲介（本校現PTA会長）

佐藤 伸之（本校前PTA会長）

林 信宏（大和市立北大和小学校長）

石井 富佐子（本校校長）

【本校職員】

神橋 尚子（本校副校長）、中山 拓憲（本校教頭）、上野 哲生（本校事務長）

吉永 直裕、高橋 敦子、萩原 拓己、田部 慧、本郷 真由美

1. 本校現PTA会長あいさつ

会長 挨拶

2. 校長あいさつ

校長 挨拶

3. 学校評価部会

【学校評価報告書について】

①学事部

- ・各教科で教科会を実施し、「生徒による授業評価」の分析や授業力向上に向けた来年度の方策、本校の生徒の課題等について話し合い、「授業力向上ワークシート」を作成した。
- ・「授業力向上ワークシート」を活用して前年度工夫したことを参考にし、より良い授業をつくっていく。
- ・「授業力向上ワークシート」を活用して大和高校で今まで取り組んできたことを新しく来た先生にも共有し、授業づくりに活かしてもらおう。

②生徒会部

- ・部活動に関するアンケートを生徒に実施した。その項目の中で、「不審者が侵入してきた場合、どのように対応したらよいか理解している。」の回答結果は例年低く、より生徒への意識を高める必要がある。他の項目も例年通りの結果であったが、「部活動に関する悩みや不安がある時は、指導者に相談している。」の「できる」の回答が微増となった。
- ・今年度はグラウンド改修工事があり、グラウンド部活の負担が大きかった。
- ・次年度は体育館の改修工事が一年間予定されており、体育館部活の負担が大きくなる。次年度の顧問の配置において、体育館部活動をより充足させるなど負担の軽減に努めたい。
- ・専門の顧問の不足や部活動インストラクターの予算が限られているため、各部活動の要望に十分に答えきれない現状がある。

③生活保健部

- ・アンケートによって捉えたいじめの「疑い」や学校生活に関する相談等、いずれの案件も組織的な対応で適切に取り組むことができた。
- ・定期試験における不正行為やそれに準ずる行為が例年よりも多く、対策や対応をよりブラッシュアップしていく必要がある。

④進路部

- ・校内模試の結果を業者とともに分析し、それを三者面談における進路指導で役立てることができた。
- ・生徒と保護者に本校の進路指導をより理解してもらうために、三者面談を全員参加にするなど面談のあり方の検討が必要である。

⑤総務部

- ・7月に部活動体験会を実施し120名ほどの中学生が参加した。これに参加した中学生と本校受験生の相関性など、効果の検証をしていきたい。
- ・美化委員が地域清掃を指示し、教員はサポートのみ行うスタイルが確立でき、生徒の主体性の育成につながった。
- ・化学室の床工事は不備を解消することができた。水道水の不備に関しては浄水器を設置することで対応している。

(意見)・グラウンド改修工事に関連して施設を提供したが、施設提供だけでなく今後も協力し合っていきたい。

(意見)・校内模試の実施回数や身につけさせたい力について教えていただきたい。また、三者面談は現在任意での参加となっているが参加率はどれくらいか知りたい。

(回答)・校内模試については1年生と3年生は年4回、2年生は年3回実施している。基礎的な学力の習得を目的に取り組んでいる。三者面談の参加率は1、2年生はほぼ全員参加しており、3年生は6割程度である。

(意見)・三者面談に関する保護者の負担について伺いたい。

(回答)・各家庭によるが、夏休み中は普段学校にいるはずの生徒が家にいるといった面では、普段より保護者の負担はあるだろう。面談をオンラインで実施するなど、教員と家庭双方にとって負担を軽減できるやり方を模索することも必要だろう。

(意見)・清掃ロッカーのペンキ塗りなど、保護者も参加できる企画をより拡充してほしい。

(意見)・今年度のつきみ野祭りは雨で中止になってしまったが、次年度こそ実施し花火の打ち上げ等とおして地域の連携を深めていきたい。

【魅力と特色づくりについてのアンケートについて】

- ・保護者を対象にしたアンケートでは回答者数が少ないこともあり、回答の傾向に少しばらつきがあった。

4. キャリア部会

- ・3月12日時点の令和7年度進路実績は、国公立大学の合格者数は52名、早慶の合格者数は32名となった。例年より横浜国立大学の割合が高くなった。
- ・4月時点での第一志望宣言の達成率は3割程度であったが、これは目標を高く設定した結果ととれる。また、国公立大学の結果は、第一志望宣言の志望者数と相関があることが再認識できた。

- ・国公立大学を第一志望とすることが早慶の合格実績にもつながることが考えられる。
- ・3年の夏休み明けに国公立大学の受験を断念する生徒が見られるが、そういった生徒を諦めさせない指導を組織的にしていく。
- ・生活習慣の振り返りや日頃の学習活動のために新一年生には手帳を買わせる予定である。
- ・探究に関する出張や校内研修を例年以上に充実して行うことができた。

(意見)・地方の大学に行き、一人暮らしをさせることは経済的な負担が大きいのではないか。また、地方の大学に通うことで就職活動に苦慮する側面もあるのではないか。

(回答)・地方の国公立大学に通うのであれば首都圏の私立大学に通うことと大きな差はないだろう。就職活動において首都圏の強みはたしかにある。しかし、オンラインやAIによる面接の普及で地方からの就職活動もこれから容易になっていくだろう。

(意見)・主体的に物事を考えることのできない人が増えているように感じる。そういった側面から探究がより求められるようになるだろうし、学校内の指導だけでなく社会全体として取り組む必要もあるだろう。

(回答)・探究の必要性について探究担当の教員以外の理解も深めている。小中高大と連携して取り組んでいくことも求められるだろう。

5. 地域連携部会

- ・当初計画していた行事の多くを実施することができた。
- ・生徒発案のもと12月に清掃イベント「スポGOMI」を実施し、つきみ野自治会と連携をして行うことができた。

(意見)・大和高校の生徒が近隣の小中学校へ学習ボランティアに行くなど、新しい行事や活動を開拓して地域連携の幅を広げていきたい。

(意見)・「スポGOMI」に関して、他校のPTAも高く評価していた。次年度の開催に関して何か見通しはあるか。

(回答)・次年度では参加規模をより拡大していきたい。そのためにも長期的な視野を持って計画的にやっていく。

6. 意見交換

(意見)・浪人生のサポート等はあるのか。

(回答)・浪人生とはあまり連絡は取れていない。予備校との連携も年々希薄になっている。

(意見)・大和高校のタウンニュースの担当は卒業生でもあるので、ぜひ活用してほしい。

(意見)・定期試験に関する不正行為についてももう少し具体的に教えてほしい。

(回答)・試験開始前にメモを書いたり、試験終了後も解答を続けた生徒などがいた。生徒も不正行為に対する危機意識はあったが、甘く考えていた部分もあった。大学受験のことも想定して今後も注意深く指導していきたい。

(意見)・大和高校の売りや強みは何か。

(回答)・温和で穏やかな生徒が非常に多いことだろう。それでいて学校行事も生徒自らが作り上げ、やり抜く熱量も備えていることだ。